

2025 3月

鷹栖町図書室に新しくいった本

(2月分より)

☆新しくいった本は他にもございます。図書室では新着図書のリストを配布しております。また、鷹栖町図書室の蔵書検索から探すこともできます。



たかす(一般)

『雪夢往来』(木内昇/新潮社)
『カメオ』(松永K三蔵/講談社)

『この恋だけは推理らない』(谷夏読/東京創元社)
『昇華』(今野敏/光文社)
『のんではいけない』(樋口明雄/山と溪谷社)
『寒さ』(トーマス・ベルンハルト/松籟社)
『親への小さな恩返し100リスト』(田中克典/主婦と生活社)
『快適に安全に暮らす気象学』(斉藤季美治/KADOKAWA)
『コンビニ全史』(中村直文/日経BP日本経済新聞出版)

たかす(児童)

『ようしょくやさん』(misato./岩崎書店)
『ハンバーガオー』(丸山誠司/絵本館)

『つめたいこおりどんなかたち?』(細島雅代/岩崎書店)
『まめまきぱーらぱら』(おおいじゅんこ/ほるぷ出版)
『いまは、ここがぼくたちの家』(バルバラ・ガヴリルク/彩流社)
『本当に危ない闇バイトの話』(廣末登/金の星社)

きたの(一般)

『普通の子』(朝比奈あすか/KADOKAWA)
『翳りゆく午後』(伊岡瞬/集英社)

『猫の耳に甘い唄を』(倉知淳/祥伝社)
『歪曲済アイラービュー』(住野よる/新潮社)
『昭和100年』(古市憲寿/講談社)
『途中でやめないごまかしメイク』(山下陽光/誠文堂新光社)
『子どもの早寝メソッド』(れーこ/講談社)

きたの(児童)

『おぼけずし』(柴田ケイコ/金の星社)
『おるすばん』(森洋子/福音館書店)

『ワンワンバウワウ』(もとやすけいじ/講談社)
『あの空にとどけ』(熊谷千代子/文研出版)
『知れば楽しいクモの世界』(馬場友希/少年写真新聞社) ほか

『セルフイの死』(本谷有希子/新潮社)
『京屋の女房』(梶よう子/潮出版社)
『そんなときは書店にどうぞ』(瀬尾まいこ/水鈴社)
『TOUCH/タッチ』(オラフ・オラフソン/早川書房)
『物語をつくる神話解剖図鑑』(平藤喜久子/エクスマレッジ)
『メンタルを強くする最強の食事術』(ウーマ・ナイド/SBクリエイティブ)
『大人の語彙力が身につく本』(吉田裕子/かんき出版)

『ひろい海にぼくたちは生きている』(長倉洋海/アリス館)
『いつでもトレーニング』(鈴木まもる/文溪堂)
『カっちゃん力がつく』(さいとうしのぶ/リーブル)
『きみならだいじょうぶ!』(コリ・ドーフェルド/光村教育図書)
『探検家』(キャサリン・ランデル/ゴブリン書房)
『数の関係大研究』(清水美憲/PHP研究所)

『Re:Re:Re:Re:ホラー小説のプロット案』(八方鈴斗/KADOKAWA)
『秘仏の扉』(永井紗耶子/文藝春秋)
『ことばの観察』(向坂くじら/NHK出版)
『ダイブ・イン・シアター』(柴田聡子/青土社)
『私はアセクシュアル』(レベッカ・バージェス/明石書店)
『スヌーピーの魔法のタワシ』(Miya/ブティック社)
『SHO-TIME3.0』(ビル・プランケット/徳間書店)

『もじもじモンスター』(古谷萌/文響社)
『おんぶーぶー』(矢野アケミ/童心社)
『おとなになりたくないわたし』(夜野せせり/ポプラ社)
『どう解く?』(やまざきひろし/ポプラ社)
『おとぎ話はなぜ残酷でハッピーエンドなのか』(ウェルズ恵子/岩波書店) ほか

～鷹栖町図書室の本はふるさとまちづくり応援寄附事業の寄附金を活用して購入しています～

図書室だより

図書室では、毎年この時期に蔵書点検(特別整理)を行っています。年に一度の棚卸しのような作業と、風に「曝す」ことで虫干しすることから「曝書」とも呼ばれています。鷹栖町図書室は3月4日(火)～7日(金)、北野分室は3月11日(火)、12日(水)が休室となります。ご迷惑をおかけしますが、図書資料の返却は返却ポストにて受付けております。どうぞよろしくお願いいたします。



2月の本棚リレーは丸山大祐さんでした。



「音楽のある図書室」はヒロオ2世&ザ・スペシャルアワーズによるギターとった、アコーディオン、パーカッションでした。